

子どもたちに絵本の楽しさを届ける活動

—宮崎県内の小学校における絵本の読み聞かせを中心に—

○篠原久枝（宮崎大）

目的：2000年は「こども読書年」に制定され、全国各地で「読み聞かせボランティアの育成」などの読書推進事業が展開された。宮崎県木城町には「えほんの郷」があり、自然と安らぎの空間の中で絵本にふれられるような環境作りと活動が行われている。そこで本研究では子どもたちに絵本の楽しさを届ける活動の一つである読み聞かせについて、宮崎県内の小学校における読み聞かせの実態と読み聞かせ活動を行っているグループの方々の意識について検討した。調査方法：2000年10～11月県内の小学校ならびに読み聞かせ活動を行っているグループに対して質問紙法によるアンケート調査を行った。小学校については配布数150、回収率は66%、有効回答数99であった。グループについては配布数66、回収率は56.1%、有効回答数37であった。結果：小学校における絵本の読み聞かせ実施校は69校であった。読み聞かせを行う人は「学級担任」、「保護者」、「えほんの郷講師」などであるが、地域により差がみられた。読み聞かせの効果としては、「本の面白さを感じ読書へとつながる」「安らぎの空間を与えることができる」「想像力が豊かになる」等があげられたが、学校側が「国語への意欲、関心につながる」「礼儀作法が身につく」など教育的効果を期待しているのに対して、グループ側は「友達と同じ時間を共有することができる」「強要すると本嫌いになる」など子どもの感性についての意見が多く見られた。今後、読み聞かせ活動を充実していくには「人材と時間の確保」や「絵本図書の実践」が望まれる。